



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年12月3日

No. 17

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成19年11月12日

『異文化の理解』

米山留学生

リュウ ジュヒー

柳 周希 様



皆さんこんにちは。本日は、このように皆様の前で話せるチャンスをいただき、ありがとうございます。今日は日本との出会いと韓国国内での日本文化の開放過程についてお話をさせていただきたいと思います。

まず、私の日本との出会いは、高校時代、偶然読んだ一冊の本からです。それは韓国語訳『源氏物語』です。韓国では1988年ソウルオリンピックを機に海外の文化を紹介する中、村上春樹氏の作品が若者たちの中で人気を集めるようになりました。韓国の一般の読者が読むことができる韓国語訳の『源氏物語』は、1975年リュウジョンリュウジョン呈訳『源氏イヤギ』、1995年田溶新ジョンヨンジン訳『源氏イヤギ』だけです。今読んでみると、この二度にかけての韓国語訳の『源氏物語』は『源氏物語』を専攻した者によるものではなかったため、枚挙にいとまがないほど誤訳があることに気づきます。

ここで、韓国国内で日本文化がどのように紹介されてきたのかについて申しますと、韓国国内の一般大衆向けの日本文化は、4回にわけて開放されました。

第一回は1998年、映画とビデオに限定して日本文化が開放されました。二回目は1999年、公認された国際映画祭の受賞作が紹介されます。ひき続き2000年にはやっと日本漫画が紹介さ

れ、韓国でも「ととろ」をはじめ「もののけ姫」など、日本漫画への関心が高まります。

2004年、完全に開放され、2005年には宝塚歌劇団のソウル公演がありました。現在は、韓国国内でも日本の地上波放送、教養プログラムを見ることができます。ますます、韓国国内で日本文化の市場は大きくなっています。日本という異文化への関心と理解が深まっていると思います。1998年からはじまった日本文化の開放は、今までくわからなかった日本という他者への好奇心、関心をいただく瞬間でもありました。

しかし、韓国国内で日本への理解は文化人類学の学者であるルース・ベネディクト氏 (Ruth F. Benedict) 『菊と刀』(1946年)の影響が大きいです。子供のお勧め図書でした。これは、西洋人の目線による日本文化の分析であり、東洋人である韓国人には共感できない部分もあります。韓国において、日本の文化は西洋で評価を得たものを中心に紹介、受容されているので、今後は自らの目で日本を見ようとする努力が必要であると思います。

